



真鍋みわ Miwa Manabe

マツダ株式会社 プラント技術部 第2プラント技術グループ (2002年度工学部卒業)

—どんな仕事?やりがいを感じる瞬間は?

プラント技術部はマツダ内の建物・設備のすべてに関わる部署で、現在は中国に工場を建設するプロジェクトに携わっています。私の担当は環境関係、資料の翻訳などが中心です。



学生時代の留学経験で得た語学力を活かしたい、そして地元の製造メーカーに就職したいと選んだ会社ですが、入社当初は希望部署に配属されず、何ヶ月も仕事のことでも悩みました。でも、この部署で結果を出せないなら、他の部署でも同じこと。キャリアを磨く上で、ここで立ち止まっても仕方ないと気付いてからは仕事に前向きに取り組むようになり、同僚からも「明るくなったね!」と言われるようになりました。上司に相談して特別に配置換えなどの配慮してもらえたことも大きかったですね。今だから言えることですが、どんな仕事でも、一度わかり始めると面白くなってきますよ。

仕事でやりがいを感じるのは、自分の努力の成果が形になって見えたとき。例えば、作った資料が実際に会議で

週末はスノーボードのインストラクターに。プライベートを充実させると、自然と仕事もやる気になります。

使われると「役に立ってるんだ!」と実感できて次も頑張ろうと思えます。先日中国に出張した際は、現地で運転手をしていただいた方の結婚式に突然招待されるなんていうレアな体験もできました。

—プライベートの過ごし方を聞かせてください。

冬は毎週末、スノーボードのインストラクターをしています。学生の頃からの趣味ですが、最近は大会にも出場したりと、結構本格的に。今の目標は全国大会出場ですね。他のシーズンは、友人と旅行に行ったり料理をしたり、とにかく行動しています。せっかくの休みを家でボーっと過ごすのは、時間がもったいない気がして。今後は、夏にもスノーボードと同じくらい熱中できるものを見つけたいですね。

—今、大切にしていることは?

時間です。できる限り時間内に仕事をきっちり終わらせ、自分の時間を作る。そして限られたオフタイムをいかに有効に過ごすかを常に考えています。プライベートを充実させると、自然と仕事もやる気になりますね。社会人になると、とにかく自由な時間が少ない。学生のうちに趣味でも勉強でも、何かにとことん打ち込んでおきたいと思っていますよ。



社会の第一線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身に付けておくべきことはまたプライベートの話まで。私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

羅針盤 OB&OG紹介



—県職員という道を選んだ理由は?

私の場合、仕事をするのなら公のために役に立つことをしたいという想いが職業選択のベースになりましたね。仕事で公益を追求できるということで、公務員になろうと思ったわけです。現在は福祉保健部の予算を担当しています。具体的には、日々のお金の使い道の管理をしたり、必要性やメリットなどを政策的に色々な角度から検討し、県の事業の予算を編成していくことが仕事です。

—仕事をしながらの大学院生活は?

大学院への入学を決意したのは、改めて学ぶことの必要性を感じたからです。また公務員としての自分のキャリアを考えているうち、現在の自分にとって学び続けなければという意欲が自然と出てきたのです。社会人大学院というのは、これまで仕事をする中で生まれた自分の問題意識を、いかに学問的に整理し、どう解決していくかを学ぶところ。とてもリアリティがあるんですね。

ゼミや授業では、実際に仕事で取り組んでいることを発



表したりします。大学院生には多様な人がいて、未知の業界の話はとても刺激になりますし、学術的な理論を習得する一方、思い切り実践的なことも学べる。そのバランスが社会人になると大変楽々くわくするものでした。

在学中は、寝る時間が3時間しかない日もしばしば。働きながらの学生生活は本当にハードでしたね。でも、一緒に学んでいたパワフルな人たちからエネルギーをもらい、負けていけないという思いと職場の協力で、乗り切ることができました。普段接するチャンスのない個人的な人たちと出会うこともでき、私に人間としての広がりを持たせてくれたと思います。当時のネットワークは、今も続いているんですよ。

—大切にしていることを教えてください。

まず結婚したので、嫁さんを(笑)。これは別として、大切にしているというより、こだわっていることがあります。それは「何になりたいのか」ではなく「何をしたいのか」。つまり、公務員になりたいのではなく、公のために役に立つプロと

して仕事をしていきたいということ。もはや、公共的な仕事は、公務員だけがする時代ではないので、安定していると思われる公務員の世界も大きな変革が迫られています。ただ、今の道を選んだ理由である、根底の部分さえ揺るがなければ、公のためこれからも仕事を続けていくことができるかな...と考えています。



白川展之 Nobuyuki Shirakawa

広島県福祉保健部管理総室 福祉保健総務室予算グループ (2001年度大学院社会科学部研究科マネジメント専攻修了)

勉強の時間はつくりだすもの。公務員としてではなく、公のために役立つプロとして仕事をしたい。

取材を終えて



社会人になると、仕事だけで手一杯になり他のことをする気力なんてないんじゃないかと思っていたので、真鍋さんのエネルギーにびっくり!の一言です。例えば自分が希望していた仕事ができず落ち込んでしまっても、きっかけをつかんでそれを乗り越え、さらに仕事以外でも目標を見つけて打ち込んでいる真鍋さん。向上心の強さがひしひしと伝わってきました。素敵な社会人生活を送っている先輩のお話を聞くことができ、本当に良かったです。

取材・記事 / 総合科学部4年 藤 侑佳



初めて取材をしてみて、自分が今まで知らなかった未知の世界に踏み込んだなと感じました。インタビューの前は、何とかなるだろうと気楽な気分でしたが、いざ始めてみるとこれがなかなか思うよういかない。自宅に帰って録音したMDを聞いてみたときには、自分の不甲斐なさに恥ずかしくなりました。何事も実際にやってみないと分からないものです。今回は本当に貴重な経験をさせてもらいました。

取材・記事 / 経済学部4年 上田 陽介